



第1回

旧杉並中継所の跡地活用に関する 意見交換会

令和6年11月17日（日）
杉並区政策経営部企画課
施設マネジメント担当

開会に当たって 区からの挨拶等

- 区からの挨拶
- ファシリテーターのご紹介(NPO法人日本スケートパーク協会)
- 意見交換会等のスケジュール等
- 自己紹介

意見交換会ファシリテーター

NPO法人 日本スケートパーク協会の紹介

○設立:2010年11月9日

○目的:子ども達の健全育成指導並びにスポーツ振興及び多くの人々がスケートスポーツ・Xスポーツについての正しい知識と理解を得られることにより、スポーツ文化の発展に寄与するとともに、広く公益に資することを目的としています。

【行政との連携事業】

- (1) スケートパーク計画支援と援助・提案の事業
- (2) スケートパーク管理支援と援助・提案の事業
- (3) スケートパーク利用者への技術・安全の指導と助言の事業

【愛好者との連携事業】

- (4) 子ども達へのスポーツの指導と普及・啓発の事業
- (5) スケートスポーツ等の指導者養成事業
- (6) スケートパーク周辺の清掃と自然保護普及啓発の事業



○受賞歴:2011 グッドデザイン賞受賞

八王子市戸吹スポーツ公園スケートパーク(愛称「プラネットパーク」)

戸吹スポーツ公園は、ごみの最終処分場跡地を有効利用した施設です。
八王子市と地域愛好者団体の八王子スケートボード協会(現NPO法人日本スケートパーク協会)との協働により設置された施設です。

グッドデザイン賞は事業主体である八王子市が受賞し、授賞式にはNPO法人日本スケートパーク協会が出席しました。



**GOOD DESIGN
AWARD 2011**

意見交換会全体のスケジュール・テーマ等

回	日程	テーマ(予定)
第1回	令和6年(2024年) 11月17日(日)	○旧杉並中継所の跡地活用の検討経過について知ろう！ ○アーバンスポーツを取り巻く環境等について理解を深めよう！ ○旧杉並中継所跡地にアーバンスポーツ施設を整備した場合の影響(嬉しい影響・心配な影響)や、施設整備に当たっての課題・解決策等について意見交換しよう！
第2回	令和6年(2024年) 12月14日(土)	○第1回の意見交換会で出た意見を共有しよう！ ○第1回の意見交換会で出た意見を踏まえて施設整備の実現性について考えてみよう！
第3回	令和7年(2025年) 1月19日(日)	全3回の意見交換会の検討をまとめよう！

※進捗に応じて回数や内容が変更になる場合があります。

○意見交換会の参加者以外の方の意見を聞いていくため、アンケートを実施しています(11月上旬～1月下旬を予定)。アンケートには、区公式ホームページにあるリンクからアクセスいただけます。

区公式ホームページ(旧杉並中継所の跡地活用に関するページ)はこちら



○意見交換会等でいただいた意見を踏まえ、**最終的には区が施設整備の方向性を決定します。**

意見交換会後の取組の流れ(予定)

意見交換会・アンケート等の実施
(令和6年(2024年)11月～令和7年(2025年)1月)



意見交換会等でいただいた意見や調査・研究結果を踏まえた整備方針の検討(令和6年度(2024年度)中)



施設整備の方向性を決定(令和7年(2025年)5月～6月)



※以下は、アーバンスポーツができる施設を整備する場合

基本方針・基本計画の策定(令和7年度(2025年度)～)



施設的设计(令和8年度(2026年度)～)

第1回のゴール

- 旧杉並中継所の跡地活用の検討経過について理解することができた！
- アーバンスポーツについて理解を深めることができた！
- 自分の意見や感じていることを発表し、伝えることができた！

本日(第1回)のプログラム

時間(予定)	内容
10:00~10:10	開会のあいさつ、スケジュール・プログラム等の説明
10:10~10:20	グループワーク(自己紹介)
10:20~10:35	区からの説明(これまでの区の検討経過について)
10:35~10:50	日本スケートパーク協会からの情報提供 (アーバンスポーツを取り巻く環境等について)
10:50~10:55	質疑応答
10:55~11:10	グループワーク(説明を聞いた感想や疑問点の解消等)
11:10~11:20	休憩
11:20~11:55	グループワーク (施設の整備によって区や地域に与える影響・課題等)
11:55~12:25	グループワーク(課題の解決策等)
12:25~12:30	事務連絡

※会の進捗に応じて、時間が変更になる場合がございます。

※会場の都合上、**12時45分には部屋を空ける必要がございます**ので、ご協力をお願いいたします。

※意見交換会終了後は、希望者を対象に施設見学を実施します(12:30~13:30を予定)。

意見交換会を進める上で心がけていただきたいこと

○多様な意見を楽しみ、受け入れましょう！

→色んな考え方があることを許容しましょう

○自由に、積極的に発言しましょう！

→否定や批判はせず、発言しやすい環境を作りましょう

○疑問(モヤモヤ)を感じたらその場で解決！

→基本的なことでも気軽に聞いてみましょう

**意見を出しやすい雰囲気をもみんなで作り、
楽しみましょう！**

自己紹介

- ①お名前
- ②お住まい(井草〇丁目に住んでいます など)
- ③この意見交換会に参加した理由など

1人1分以内で自己紹介をしましょう。

区からの説明

○旧杉並中継所とは

○これまでの検討経過について

旧杉並中継所とは

・旧杉並中継所は、小型プレス車で収集した不燃ごみを効率的に最終処分場に運搬するため、大型車両への積み替えを行う施設でした。平成12年度(2000年度)に東京都から清掃事業が移管された際、区に施設が移管されました。



・その後、不燃ごみが大幅に減少したことなどから、平成21年(2009年)3月末に廃止しました。東京都から移管された時の条件で、20年間は清掃事業以外の用途では活用できませんでしたが、令和2年(2020年)3月末をもって条件期間を経過したことから、他の用途でも活用できるようになりました。

○施設情報

面積：(敷地面積)8,919.46㎡ (延床面積)6,311.73㎡

建物の概要：平成8年(1996年)3月竣工(築28年)

RC(鉄筋コンクリート)造

1階:912㎡ 地下1階:3,135.14㎡

地下2階:2,264.59㎡

用途地域：第一種低層住居専用地域(一部、第一種住居地域)



区ではこれまで、跡地活用について様々な検討を進めてきました。

災害時の防災拠点としての活用を決定

平時の活用検討

令和元年度(2019年度)

令和2年度(2020年度)

令和3年度(2021年度)

令和4~5年度
(2022~2023年度)

- サウンディング型市場調査
- オープンハウスの実施

- 高度専門家による課題検討支援

- ゾーニング検討
- 庁内需要調査

災害時は防災拠点として活用することとしており、現在は平時の活用方法について検討しているところです。それぞれの検討内容について、これからご紹介します。

首都直下地震の発生が危惧される中、区の災害対応力の一層の向上を図るため、「発災後3日間を乗り切れる体制の構築」等の視点に立ち、**災害時には旧杉並中継所を区の防災拠点として活用**することとしています。



- ・建物診断調査の結果、築後30年程度であり、一般的な鉄筋コンクリート造建築物の耐用年数からも再利用が可能
- ・構造躯体の安全性に支障がない

災害時は防災拠点となる

施設内の機械設備が存置されており、これらを撤去しなければ有効に活用できない



1階PRコーナー(パネル展示会場)については、現在、地元町会の会議室として使用されている

本施設は、第一種低層住居専用地域内に位置しており、活用可能な用途が限定される

既存施設の改修による活用を基本とします。

防災拠点の機能に支障をきたさない範囲で平時活用を行います。

機械設備撤去を前提に平時活用を行います
※使用用途によっては、一部存置の可能性もあります。

引き続き周辺住民等が会議利用できるスペースを確保します。

地域の声を丁寧に聞きながら、公共性や住環境への影響等を踏まえ、平時活用方法を検討します。

- 平時活用の検討に当たり、民間事業者のアイデアや、参入の可能性等を確認するための調査(サウンディング型市場調査)を実施しました。
- 調査の結果、6事業者から活用アイデアや使用するエリア等について、以下のような提案を受けました。

【民間事業者からの主な提案・意見】

<p>活用方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設(フットサル、テニス、バスケットボール等) ・スケートボード広場、幼児用キッズバイク広場、BMX広場 ・アミューズメント施設(eスポーツ・脱出ゲーム等) ・倉庫 ・物流センター ・専門家向け施設(撮影スタジオ・録音スタジオ等) ・展示場・音楽ホール ・予約制駐車場サービス 	<p>地域貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①地域貢献の取組等のアイデア <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツイベントや地域参加型イベントの開催 ・交通安全講習会の開催 ・障害者自立支援事業の実施 ②PRコーナーの活用方法 <ul style="list-style-type: none"> ・カフェ、ラウンジ、フリースペースの場所として活用
<p>災害時の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①災害時、区と連携し、防災拠点としての機能を高められるアイデア <ul style="list-style-type: none"> ・自家発電機、かまどベンチ、Wi-Fi機器の設置 ・災害備蓄品等の震災救援所等への運搬作業の協力 ・グループ企業が保有している車両の提供 (災害備蓄品等の運搬車両や電気自動車からの電源確保に活用) ②災害時の運営について <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の防災拠点とともに運営可能 ・休業する(業種及び運営形態によって、休業補償が必要) 	<p>井草森公園との一体的な活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キッチンカーによる販売サービスの提供 ・公園と連携したイベントの開催 ・公園と一体的に維持管理することで、コスト削減が期待できる
		<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存建物が今後30年程度使用できることを考慮すると、区が費用をかけて機械設備を撤去し、活用エリアを広げ、施設全体を有効活用することが望ましい ・災害時における区と民間事業者の責任や権限を明確にすることが必要 ・災害時に平時の活用から防災拠点への迅速な切り替えが課題 ・地元町会によるPRコーナーの利用は継続できる

【調査の結果確認できたこと】

- ・跡地活用に関心のある民間事業者は複数あり、様々な活用の可能性がある
- ・機械設備の撤去を行う場合、民間事業者が実施することは、費用面から困難であり、区が行う必要性が高い →費用対効果を慎重に見極める必要がある
- ・提案の中には、機械設備の撤去を行わずに、活用できる用途がある
- ・災害時における区と民間事業者の責任や権限を明確にすることが必要である

- 跡地活用の検討に当たって、区民の皆様からの意見をいただくため、旧杉並中継所でオープンハウスを開催しました。
- オープンハウスでは、パネル展示に基づく区からの説明、施設内の見学、アンケートによる意見受付を行いました。

【アンケートの結果】

○跡地の活用の方向性について

人々が憩い交流できる場所	スポーツや文化を楽しめる場所	地元で働く場が生まれる場所	多くの人が訪れ賑わいが生まれる場所	その他※
9人	18人	2人	2人	2人

○必要な施設について

※引きこもりのための就労対策など

アミューズメント施設	スポーツ施設	スケートボード広場	BMX広場	倉庫	物流センター	展示場	予約制駐車場	その他※
4人	8人	1人	1人	1人	2人	8人	1人	7人

○自由意見(抜粋)

※環境科学館、多目的集会室など

<p>施設の要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人が使え施設、誰でも利用できる会議室の設置 ・1階の会議室をレストラン、カフェとして活用、庭の開放 ・子どもが利用できる施設 (例)アスレチック、トランポリン、スポーツジム ・科学と自然の散歩道があることから、子どもや大人が科学や環境について学べる施設が望ましい。地域の歴史・資料の展示。 ・ひきこもり、不登校などの方のための施設 (例)物流センターなどを作り、働ける場所を用意 ・災害時における可燃ごみ・不燃ごみの保管場所 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下2階の機械の上に床を張り、本庁代替施設・災害備蓄倉庫として活用し、地下1階を民間事業者へ貸し出す ・出来れば機械を撤去して、災害時の活用ができれば良い ・物流センターと防災拠点の両立は難しいのではないかと ・民間活力の導入はいい考えだが、難しいと思う ・中継所としての使用が短期間で終わるとは思わなかった。建設費の無駄である。今後は、無駄のないように活用して欲しい
<p>周辺への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民の意見を第一にして欲しい ・物流センター、倉庫としての活用はいいアイデアだが、車の出入りが多くなり不安 ・区財政を大切にしたい、歳入確保につながる施設が望ましい ・保育園があるので、騒がしい活用はやめた方がいい 	<p>付せんに記載のあった意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の会議室として使用したい ・軽食を取れるところが欲しい ・公園に来た方が利用できるようなレストランが欲しい ・美術館、カフェ、食事、休憩できる場所として使用したい

【オープンハウスで確認できたこと】

- ・区民アンケートではスポーツや文化が楽しめる場所を望む声が多く、具体的にはスポーツ施設や展示場の整備を望む意見が多いこと
- ・災害時に防災拠点として活用することについては、反対の意見は無いこと

- 内閣府では、公的不動産の利活用などを検討している地方自治体等に対して、コンサル業者による支援を実施しています
- 令和3年度(2021年度)においてはこの制度を活用し、市場調査(事業者ヒアリング)を実施しました

【主なヒアリング内容】

活用アイデア	<ul style="list-style-type: none"> ・スケートボード広場、BMXエリア(スケートパーク) ・ランニングバイクエリア ・カフェ、ラウンジ、フリースペース ・トレーニングジム、スタジオ ・物流センター(ドッキング場、営業所) ・稽古場 ・キッズスペース ・ボルダリング施設 ・公園内のイベントとの連携
活用エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・地下1階を主な活用スペースとする意見が多数 ・地下2階の機械設備を区が撤去する場合は活用可能

災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・災害への備えと初動対応は可能 ・施設閉鎖時の対応について、どのような基準で対応すべきか懸念がある ・災害時の対応を見据え、設置する設備を工夫することは可能 ・災害時のどのような業務に協力するか、事前に取り決めが必要 ・被災状況等の情報を区に提供することは可能 ・災害備蓄品の輸送や、緊急物資の流入に関しても対応可能
--------	---

【市場調査(ヒアリング)結果の整理】

- 事業への関心
 - ・ スポーツ関連事業者及び物流事業者からは高い関心が得られたが、文化施設等の運営を手掛けるイベント関連事業者からの関心は低い結果となった。
 - ←旧杉並中継所が防災拠点として活用するため、文化施設を整備する費用に見合うポテンシャルが想定されない
 - ←一度に多くの人数を集めると、災害時の避難動線の確保が難しい



- 平時の活用方法
 - ・ 平時の活用方法として、スポーツ関連事業者からはスケートボード場やBMX関連の施設として活用することや、ジム・スタジオとして活用するアイデアが得られ、物流事業者からは、営業所やドッキング場といった物流拠点としてのアイデアが得られた。
- 災害時の対応等
 - ・ スポーツ関連事業者からは、防災拠点としての運営を妨げないよう、動線等を考慮しながら設備を設置することが可能との意見があった。
 - ・ 物流事業者からは、発災時の荷物や車両の整理等については特段問題なく、発災時には事業者が所有する車両等を活用した災害対応の協力も有償で可能との意見があった。

○ 平時活用が可能なスペースについて検討し、以下のとおり活用することを想定しています。

■ オレンジ部分：防災機能（占用）となっており、平時活用ができないスペース

■ グリーン部分：災害時には防災拠点として活用するが、平時使用が可能なスペース（設備等の作りこみは困難）

■ ブルー部分：災害時に使用しないスペースで、平時活用にあたっては、設備等の作りこみが可能

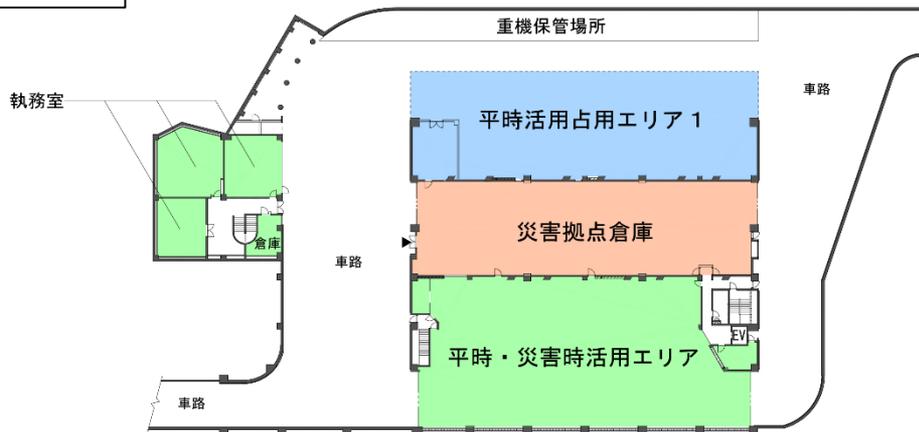
1階



地下2階



地下1階



○これまでの検討を踏まえて、

①スポーツ関連施設、②文化施設（ホール、展示場等）、③物流センターを平時活用の有力候補として各施設の特性等を整理しました。

スポーツ
関連施設

- ・施設の特性を生かして球技、フィットネス、スケートボードなど様々な種目の利用が期待できることから事業性が高い。隣接する公園とも親和性が高く、住民理解が比較的得やすい可能性がある。また、種目により改修費用の抑制も期待できる。
- ・設置する設備を移動可能なものにすることや動線に配慮することで、防災拠点としての機能に支障なく平時活用が可能。

文化施設
（ホール、
展示場等）

- ・事業者からは、防災拠点としての活用が前提にある中では、施設の作りこみが難しく、事業展開が困難との意見があった。
- ・施設規模が大きく、天井も高いため、大規模な内装改修や防音設備の設置などに加え、貨物用エレベーターの設置など整備に多額の費用がかかる。また、地下2階へのアクセス面の課題から同時に多人数の集客を行う場合、安全性の確保に懸念がある。

物流
センター

- ・改修せずに活用することが可能との意見があり、改修費用を抑制することができる。また、賃料収入も期待できるため、財政負担の軽減の視点からみると効果が高い。
- ・一方で、施設の稼働が長時間になることが想定されることや、通行車両の増加による住環境の悪化が懸念されることから、区民理解が得られにくい可能性がある。

以上を踏まえ、総合的に比較・検討した結果、区としては「スポーツ関連施設」の実現可能性が最も高いと考えられることや、区の総合計画に掲げる「誰もがスポーツに親しむことができる環境づくり」に寄与することが期待できることから、「スポーツ関連施設」についてより具体的な検討を行いました。

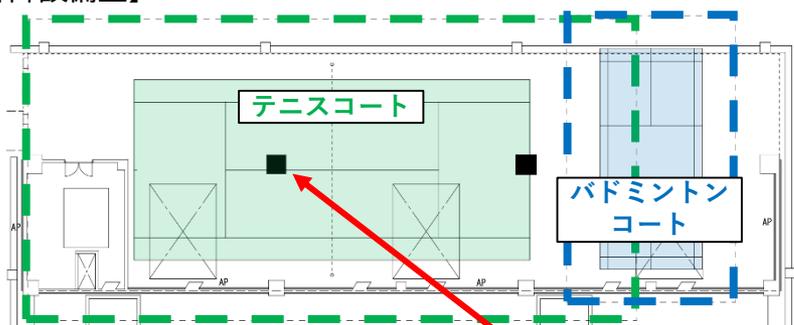
平時 スポーツ関連施設としての具体的な検討①

民間事業者から提案のあった、フットサル、テニス、バスケットボールなどの球技及びスケートボード、BMXなどのアーバンスポーツについて、事業者等へのヒアリングや現地案内を実施しながら検討を進めました。

フットサル、テニス、バスケットボール、バドミントンコートの整備の可能性について

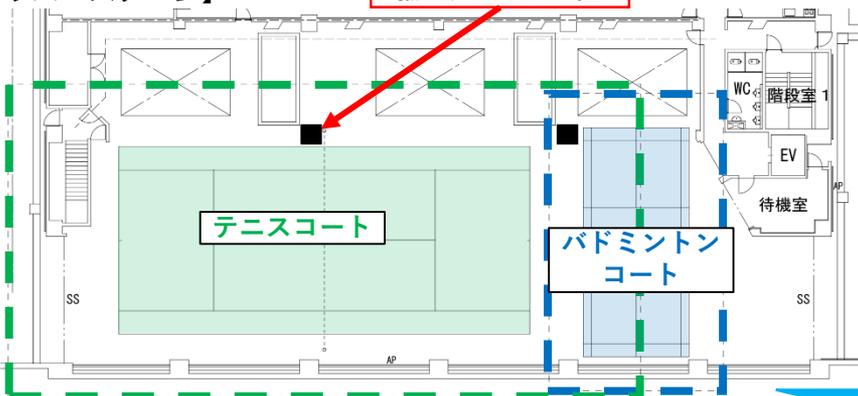
地下1階

【昇降設備室】



【ホッパーステージ】

撤去できない柱

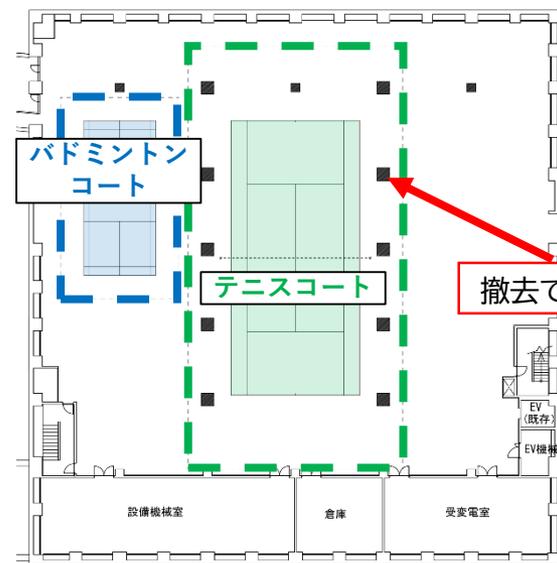


【凡例】

- テニスコートの必要空地範囲
- バドミントンコートの必要空地範囲

※必要空地範囲とは競技中の安全確保等の観点から設ける必要がある範囲を指します。

地下2階



撤去できない柱

・撤去が不可能な柱などが支障となり、コートの面積または必要空地範囲を確保できない(フットサル、バスケットボールコートの場合も同様) ※体験スペース等の簡易的なスペースであれば確保可能

・スポーツ関連事業者へのヒアリングでは、周辺(徒歩15分程度)に上井草スポーツセンターがあることから、そこでは出来ない種目ができる、様々なスポーツに触れられる機会が増えて良いのではないかと意見もあった。

アーバンスポーツができる施設としての活用について

スケートボードやBMXをはじめとした、都市型スポーツ(いわゆるアーバンスポーツ)ができる施設としての活用について検討しました。

スケートボードに加えてBMXやインラインスケート、キックバイクなども同じ施設でできるように整備すれば、幅広い世代の子どもやその保護者も利用しやすくなる。

アーバンスポーツは騒音や安全面等で課題があるが、旧杉並中継所は地下施設のため、騒音の問題を解決することができる。

屋内施設なので、天候の影響を受けず、多くの利用者を見込める。

アーバンスポーツ施設整備に関する スポーツ関連事業者からの意見

地下1階、地下2階とも十分にスペースを確保できる。

整備に当たっては、周辺住民、施設利用者が一体となってルール作りを行うなど、合意形成を図っていくことが望ましい。

工場のような雰囲気など、施設の持つポテンシャルが高く、多くの利用者を見込める。

アーバンスポーツができる施設としての活用については、十分なスペースが確保でき、屋内施設という特性から事業者の関心も高く、施設特性を活かすことで解決できる課題も確認できた。また、施設利用のルール作りをはじめ、施設整備に向けて留意すべき点についても確認することができた。



スケートボード



BMX



キックバイク
(ランニングバイク)



インラインスケート

- 旧杉並中継所は、災害時には防災拠点としての活用を前提としていることや、撤去ができない柱があることで活用スペースがさらに限定されるなど、様々な制約があります。
そのような条件のもと、これまで検討を重ね、スポーツ関連施設として活用する可能性を見出してきました。
- 球技については、柱の位置を踏まえると大会等が開催できるような公式のコートを整備することは難しいことが確認できました。
アーバンスポーツについては、施設の特性を踏まえると、騒音等の課題を解決できる可能性があり、事業者からも多くの利用者を見込むことができるという意見もありましたが、住環境への影響も懸念されることから、地域住民との丁寧な合意形成が必要であることが確認できました。
- この他にも、フィットネスなどの活用アイデアもあったことから、これらを組み合わせると多目的な種目ができるスポーツ施設として整備することにより、子どもから大人まで誰もがスポーツに親しむ環境づくりにつながる可能性も確認することができました。なお、種目については、近隣の上井草スポーツセンターとの関係についても留意する必要があります。

令和6年(2024年)7月には、これまでの説明スライドを使ったオープンハウスを実施し、区民の皆様から様々なご意見をいただきました。
いただいた意見について、次のページでご紹介します。

○令和6年(2024年)7月に、オープンハウスを開催し、これまでの検討に関するパネル展示と、施設内の見学を通じて、区民の皆さんに取組を知っていただくとともに、平時の活用方法についてご意見をお聞きしました。

○オープンハウスにおいては以下のようなご意見を頂きました。

アーバンスポーツ施設の整備に賛成する主な意見

旧杉並中継所にアーバンスポーツパークが整備されたら、子どもから大人まで、ボードを購入するだけで、すぐにチャレンジすることができる。ストレス社会の心身の健康の為にも、素晴らしい活用方法だと思う。

施設の雰囲気との親和性や既存の設備の活用の可能性、アーバンスポーツができる場所の少なさを考えると、現在検討されている、スポーツ施設での活用が有効だと思う。

子どもが安全に楽しく過ごせるアーバンスポーツ施設になれば良いと思う。
騒音が心配だったが、施設見学をして心配ないと感じた。

高齢化社会とはいえど、子どもが安全に遊べる場所が少な過ぎると感じるので、将来の日本を担う子ども達のために、アーバンスポーツパークの整備が良いと思う。

アーバンスポーツ施設の整備の懸念点に関する主な意見

施設を整備することによる、騒音・治安や雰囲気の悪化、夜間の施設周辺での話し声などを懸念する。

近隣住民としては人が集まってくることによるマナーの問題に懸念がある。施設が空いていないから、空きが出るまで外でスケートボードをやる人がいないか、ゴミや駐輪・駐車のマナーもしっかりルール作りをして欲しい。

その他の活用方法に関する主な意見

高齢者や小さい子どもが自由に出入りできる場所が良いと思う。カフェもあったら行ってみたい。

地下2階の機械設備は撤去ではなく、なるべく残すことで面白い空間をつくれると思う。
スポーツ施設だけでなく現代アートなどのギャラリーや、イベントスペースなど多様な使い方が可能だと思う。

※ その他、来場者の皆さん(129名)から様々な意見をいただきました。

オープンハウスで実施したアンケートの主な回答

- 令和6年(2024年)7月に実施したオープンハウスにおけるアンケートでは、来場者のうち87名の方にご回答いただきました。
- アンケートでは7割以上の方が、スポーツ施設を整備するのであれば、「アーバンスポーツができる施設」を整備するのが良いと思うと回答しました。
- 跡地活用に当たって留意すべき点については、5割以上の方が「住環境への配慮」、4割以上の方が「防災拠点との親和性」、「交通渋滞・安全への配慮」と回答しました

オープンハウスの内容を踏まえて、スポーツ施設を整備するのであれば、どのような施設を整備するのが良いと思いますか。(複数選択可)

1 スケートボードなどのアーバンスポーツができる施設	63	72.4%
2 球技ができる施設	14	16.1%
3 ヨガやトレーニングができるスタジオ	18	20.7%
4 その他	17	19.5%

※割合(%)は回答者数(87人)に対する割合

跡地活用にあたってどのような点に留意すべきだと思いますか(複数選択可)

1 交通渋滞・安全への配慮	37	42.5%
2 住環境への配慮	46	52.9%
3 区の財政への影響	23	26.4%
4 防災拠点との親和性	38	43.7%
5 公園との親和性	30	34.5%
6 地域住民の意見	34	39.1%
7 その他	4	4.6%

※割合(%)は回答者数(87人)に対する割合

アーバンスポーツができる施設整備の要望

- 令和6年(2024年)8月に、区内外の335名の方の署名を集めた、「アーバンスポーツ利用可能施設設置要望書」を受領しました。

これまで検討してきた内容やオープンハウス等を通じていただいた意見を踏まえ、アーバンスポーツができる施設の整備を視野に引き続き検討を進めていくこととしました。

具体的な検討に当たっては、区においてアーバンスポーツ施設の整備実績が無いことから、他自治体において実績のある専門事業者の支援を受けながら課題の整理や解決策の検討等、調査・研究に取り組むこととしました。

日本スケートパーク協会 からの説明

- アーバンスポーツとは
- アーバンスポーツ施設について
(他の自治体の事例紹介等)

アーバンスポーツの概要

- アーバンスポーツとは、都市環境の中で楽しむスポーツの総称です。主にスケートボード、BMX、インラインスケート、ストリートバスケットボール、パルクールなどがあります。これらのスポーツは、競技としての技術向上だけでなく、遊びやコミュニティ活動としても楽しまれており、仲間との助け合いや自己研鑽を重視する文化的要素を持っていることが特徴です。
- 近年ではオリンピックの正式種目に採用されている種目もあり、注目が高まっています。一方で、国内では安全面や公共空間での利用の難しさから、専用施設の整備が求められています。
- また、アーバンスポーツは、「地域コミュニティ」の活性化にもつながる可能性がある新しいスポーツ文化です。



画像提供: NPO法人 日本スケートパーク協会 (<https://www.jspa.or.jp/>)

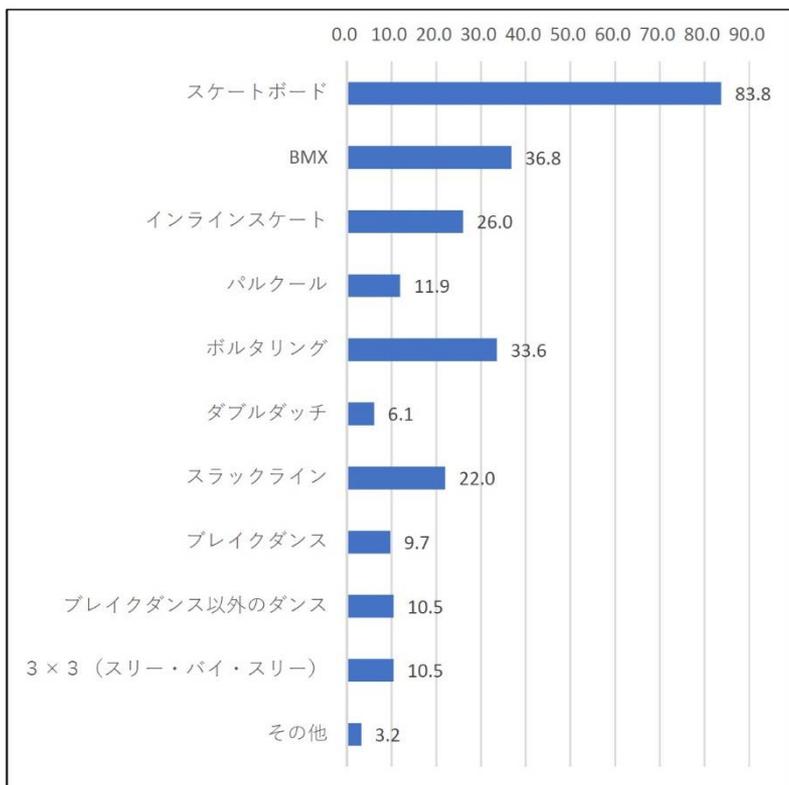
出展: RedBull (<https://www.redbull.com/es-es/house-of-vans-londres-skatepark>)

出展: 日本パルクール協会 (<https://parkour.jp/>)

アーバンスポーツ体験種目と活動上の課題について

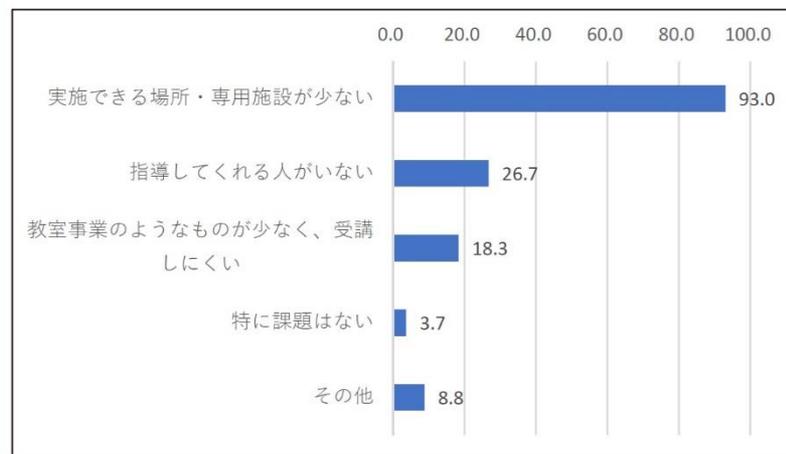
●体験したことのある種目(N=277)

・体験したことのある種目では、スケートボードが83.8%、BMX36.8%、ボルダリング33.6%、インラインスケート26.0%、スラックライン22.0%が上位を占めている。



●活動上の課題(N=273)

・活動をしているの課題としては、実施できる場所・専用施設が少ない93.0%、指導してくれる人がいないが26.7%、教室事業のようなものがない18.3%となっている。



(出展)

アーバンスポーツツーリズム研究会 (※)

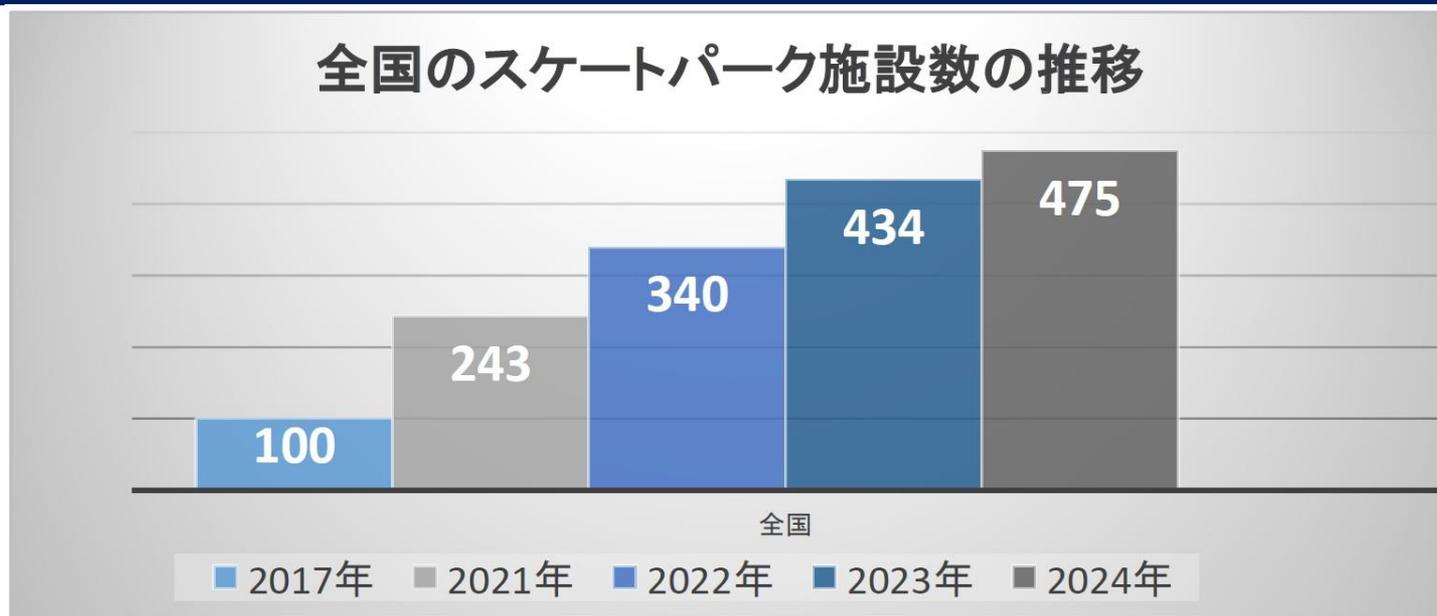
「アーバンスポーツツーリズム需要者アンケート調査
(令和3年2月)」

※スポーツ庁や民間の有識者・団体等で構成

(このアンケート調査から見てくること)

- ・アーバンスポーツで最も体験の多い種目はスケートボード。
- ・アーバンスポーツ活動上の課題は実施できる場所（専用施設）が少ないこと。

日本におけるアーバンスポーツ施設について(1)



施設数	2017年	2021年	2022年	2023年	2024年
全国	100	243	340	434	475

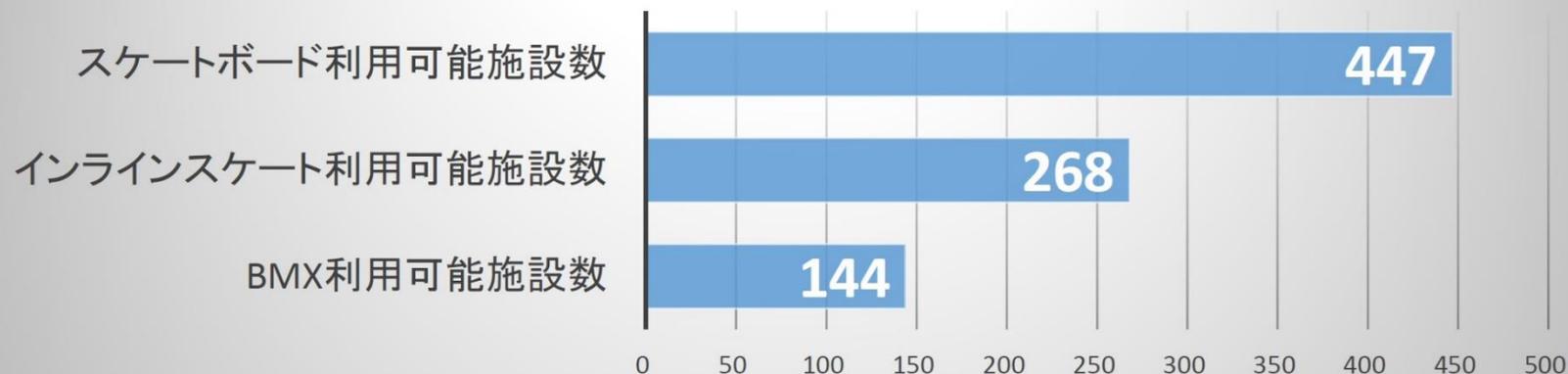
2016年8月に2020東京オリンピック新種目発表

出展：NPO法人 日本スケートパーク協会「日本全国公共スケートパーク総数調査(2024年5月31日時点)」

- ▶ 「**スケートパーク**」とは、「**アーバンスポーツ**」の中でも主に【**舗装路面**】を利用するタイヤの付いた**スケートボード**や**BMX**、**インラインスケート**や**キックボード**といった「**ストリートスポーツ**」が利用できる施設です。
- ▶ 2020東京オリンピックからスケートボードとBMXフリースタイル競技が採用されたこともあり、日本全国の自治体で、**ストリートスポーツ**ができる施設が増加しています。

日本におけるアーバンスポーツ施設について(2)

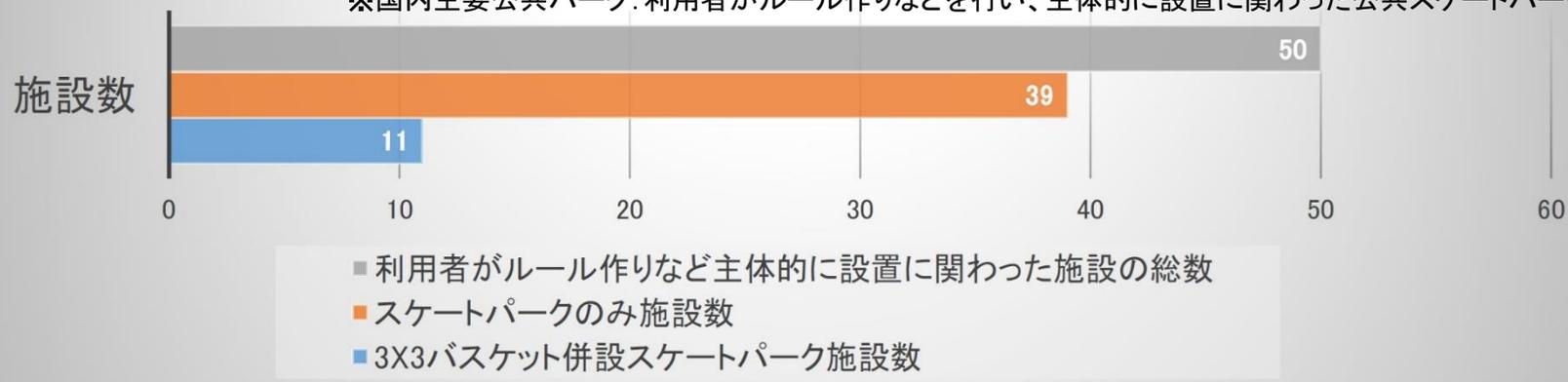
種目ごとの利用可能施設数(複数の種目が利用可能な施設を含む)



NPO法人 日本スケートパーク協会「日本全国公共スケートパーク総数調査(2024年5月31日時点)」

国内主要公共パークの内、3X3バスケットコートが併設している施設数

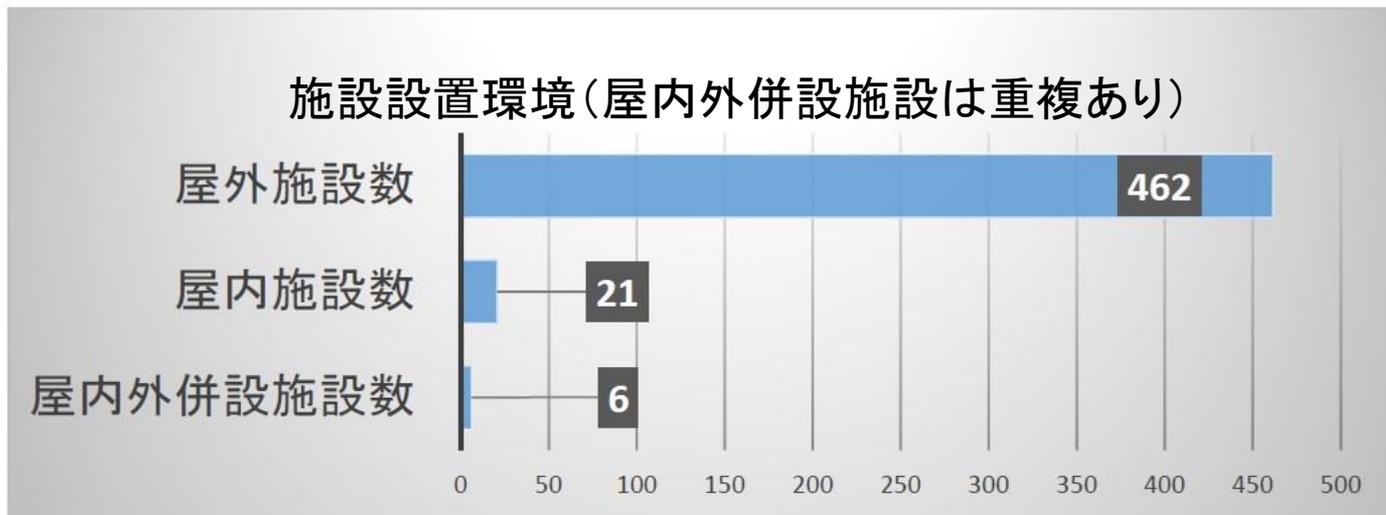
※国内主要公共パーク: 利用者がルール作りなどを行い、主体的に設置に関わった公共スケートパーク



NPO法人 日本スケートパーク協会「国内主要公共パーク概要・面積・料金・ルール・3X3バスケット・屋根・終業時間調査(2024年8月5日調査)」

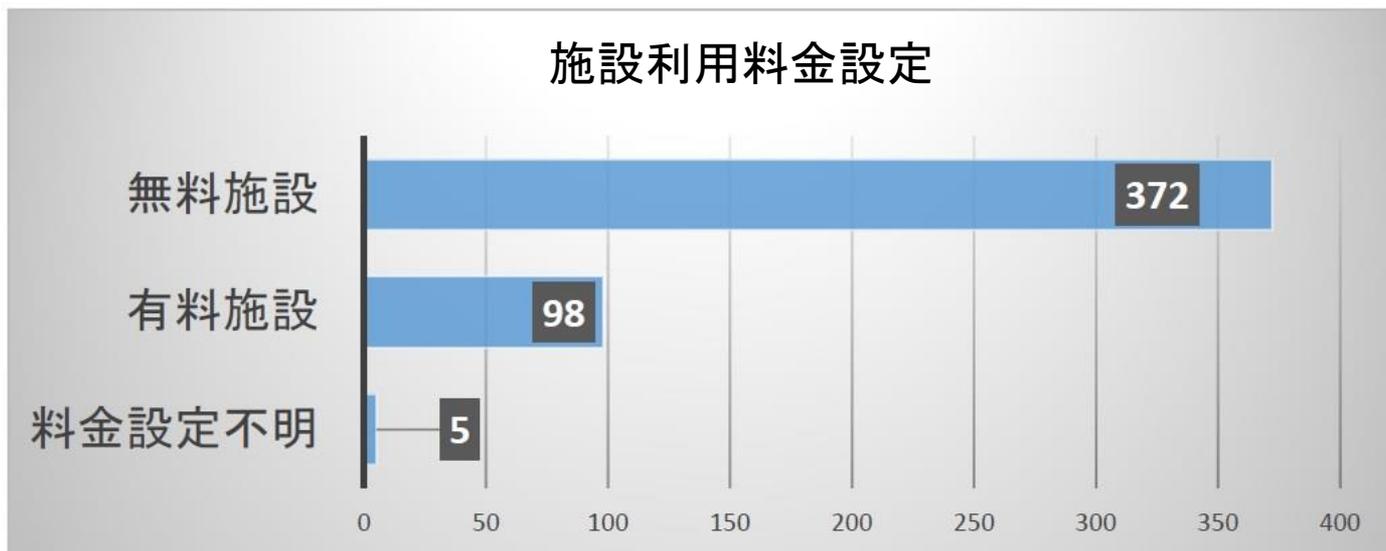
- ▶ バスケットコートなど、これまで公園内に設置されていた設備が、近年では人気の高まりとともに、比較的規模の大きな「**スケートパーク**」に併設されるケースが増えてきています。

日本におけるアーバンスポーツ施設について(3)



NPO法人 日本スケートパーク協会「日本全国公共スケートパーク総数調査(2024年5月31日時点)」

- ▶ 屋外施設が多く、雨天や積雪の際は利用できない施設が多い。



NPO法人 日本スケートパーク協会「日本全国公共スケートパーク総数調査(2024年5月31日時点)」

- ▶ 規模が小さな施設や屋外施設では、利用料を無料としている施設が多い。

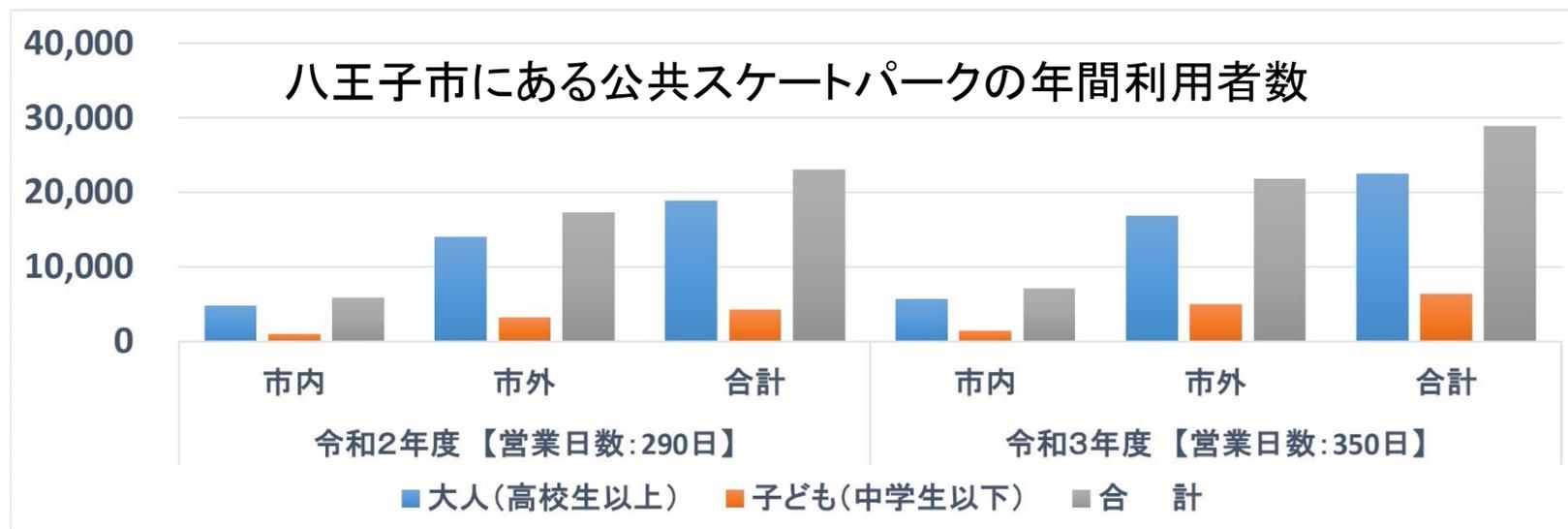
アーバンスポーツ施設利用者の年齢傾向について(八王子市の公共スケートパークの例)

八王子市にある公共スケートパークの年間利用者数

年 度	令和2年度【営業日数:290日】			令和3年度【営業日数:350日】		
	市内	市外	合計	市内	市外	合計
大人(高校生以上)	4,805	14,024	18,829	5,652	16,812	22,464
子ども(中学生以下)	993	3,217	4,210	1,438	4,962	6,400
合 計	5,798	17,241	23,039	7,090	21,774	28,864

※令和2年度:新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休場(4/1~6/14)

※令和3年度:新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休場(4/27~5/11)



- ▶ コロナ禍の時期のデータになりますが、約18~22%が中学生以下の子どもの利用となっています。
- ▶ 当施設では、4歳~小学6年生までは成人の保護責任者の同伴を必須としていることもあり、子どもと一緒に楽しむ保護者もいることから、多世代の利用につながっています。

アーバンスポーツ施設が地域にもたらす良い影響

【施設の設置で地域の治安が良くなった】

- ▶ 千葉県木更津市では、郊外の公園内に公設のスケートパークを設置する際、利用者団体の提案を聞きながら設置したところ、県内外から若者が集まり、交流の場として機能し、その場にいる人々の目によって地域の治安が向上しました。

出展「公設スケボーパーク倍増 若者の交流場に、治安向上も：毎日新聞 2024/7/17東京朝刊より」

【住民同士の話し合いから地域を活性化】

- ▶ アーバンスポーツの一部については、利用者マナーや騒音等の問題もあり、施設整備においては、地域の理解やルール作りなどが不可欠です。施設の必要性の有無を含め、検討段階から様々な立場の地域住民が関わることで地域コミュニティの醸成につながり、地域の活性化が期待できます。

【世代間交流の促進効果】

- ▶ アーバンスポーツは誰でもいつでも始められるため、様々な世代が同じ場所に集い、一緒に運動を楽しみながらコミュニケーションを交わすことで、世代間交流が生まれることに期待ができます。

【アーバンスポーツに関する懸念など】

- ▶ 施設の外でプレイしてしまうなど、周辺的环境に迷惑をかけてしまうことがあります。
(例:施設までの道中でスケートボードやインラインスケートを使ってしまう。等)
- ▶ スケートボードなどは路上での滑走時の音が騒音となる可能性があります。
- ▶ 利用者のマナーが悪いというイメージを持たれてしまうことがあります。
(例:施設利用後の路上喫煙、施設周辺でたむろする。等)

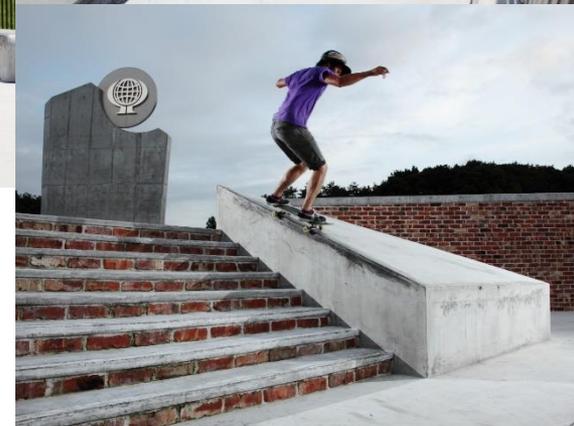


アーバンスポーツができる施設の整備を検討する際には、以上のような懸念点をどのように解決していくかをしっかり検討する必要があります。

次のスライドで、他の自治体の取組事例を紹介します。

地域ごとのアーバンスポーツ施設整備の例(1)

- ▶ 2011年4月にオープンした八王子市の戸吹総合運動公園スケートパークは、設置地域である戸吹町の住民及び八王子市を囲む近隣市町村に住む利用者（約5千人）と八王子市が、施設のデザインをはじめ、利用者が守られてかつ地域住民にも理解される利用ルール等に合意することによって整備した施設であり、市民と行政が協働して作り上げた事例の一つです。
- ▶ 13年が経過した現在も、設置当初より協働して作り上げたルールがしっかりと指定管理者指導のもとに引き継がれ、市内はもちろん他府県からも多くの利用者が訪れ、賑わっています。



地域ごとのアーバンスポーツ施設整備の例(2)

- ▶ 2002年に開設し、2017年3月にリニューアルオープンした浦安市運動公園スケートボード場は、地域利用者らがNPO法人を立ち上げ、誰が捨てたかわからないゴミでも地域利用者が拾い集めるというルールが根付いている公共スケートパークです。

【リニューアル後】



- ▶ 当施設が最初にできた時から、地域利用者は行政と共同して施設維持管理に関わり、ゴミの問題や喫煙の問題に取り組むなど、施設をとっても大切にしてきました。施設はただ利用されるだけではなく、集う人々の歴史と思いが積み重なり、ここで育った子が大人になり、また子どもを連れてくるという好循環の連鎖を生んでいます。

【リニューアル前】



地域ごとのアーバンスポーツ施設整備の例(3)

- ▶ 2020年5月にオープンしたいわき市21世紀の森公園スケートボード広場は、地域の利用者からの要望によって計画されましたが、計画段階から利用者の要望と、他の公園利用者の要望を行政がくみ取り、より多くの方の声が反映されたスケートパークとなっているため、80代で利用されている方がいらっしゃるなど、広い世代に利用されています。



画像引用:いわき市観光サイト(<https://kankou-iwaki.or.jp/>)

画像引用:いわき市(<https://www.city.iwaki.lg.jp/>)

質疑応答

○これまでの説明を聞いて全体で質問したいことがありましたら、挙手でお知らせください。(5分)

※時間に限りがございますので、質問は簡潔にさせていただくようご協力をお願いします。
※このあとグループ内で質問を受け付ける時間も設けております。

グループワーク

○これまでの説明を聞いた感想や疑問に思った(モヤモヤした)点についてグループで話しましょう。

休 憩

グループワーク

【テーマ】

施設を整備するに当たって区や地域に与える影響(嬉しい影響・心配な影響)、課題について

【ゴール】

- ・施設を整備した場合に区や地域にとってどのような影響があるか、どのような課題があるか想像できた。
- ・他の方がどのような意見を持っているのか知ることができた。

【進め方】

- ① お手元の付せんに自分の意見を書きましょう。(3分程度)
- ② 班の中で順番に発表しましょう。(1人1分半程度)
- ③ 班の中で自由に意見交換しましょう。(15分程度)

グループワーク

【テーマ】

- ・施設を整備するに当たっての課題等に対する解決策の検討
- ・施設に対する「意見・提案」
(例)より多世代が使いやすい施設にして欲しい。
スケートボードだけでなく、様々なスポーツができるようにして欲しい etc・・・

【ゴール】

- ・課題等の解決策を検討・整理することができた。
- ・課題等の解決策以外にも、施設に対して思っていることを伝えることができた。
- ・他の方がどのように考えているのか知ることができた。

【進め方】

- ① お手元の付せんに自分の意見を書きましょう。(3分程度)
- ② 班の中で順番に発表しましょう。(1人1分半程度)
- ③ 班の中で自由に意見交換しましょう。(15分程度)

事務連絡

- 意見交換会に関するアンケート
- 次回の日程について
2024年12月14日(土) 午後2時から
- 施設見学(任意参加)に関する説明